

業界天気予報

《水産業界》

モズクが“大幅減産”へ～メーカーに影響

国内消費量の9割強が沖縄県で生産されているモズクが、今シーズン(4～6月が収穫の最盛期)は“大幅減産”に見舞われているという。「モズクには『本モズク』と『糸モズク』があるが、いずれも異常気象を背景に大きなボリュームダウンが避けられない(業界筋)。主因について事情通は「今年1～2月に発生した異常な寒波により海水温が急低下したことを挙げている。「水温の変化がモズクの『生育不良』や『芽落ち』を引き起こした(同)。特に「加工品原料の過半数を占める本モズクが深刻な様相。味付けパック品などのメーカーにマイナス影響がおぼろげは必至だ」というから見過ごせない。

【本モズクの生産量推移】(「沖縄県モズク養殖業振興協議会」からの聞き取り) 単位:トン

生産量(トン)	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
目標	15,000	18,000	18,000	18,000	19,000	18,000
実績	12,000	14,000	14,000	19,000	13,000	集計中

本モズクの生産地を拠点とする勝連漁業協同組合(沖縄・うるま市)では「このままでは前年の5割程度の収穫となってしまう可能性も…」と懸念している。続けて「異常寒波の後に苗床を育て始めたものも一定量ある。これがどれだけ資源の回復につながるかについては、4月中旬以降に把握できる」と見通しを話している。一方、産地の別の漁協筋は「うまくいったとしても全体で前年の8割程度か」との見立て。業界筋は「在庫状況も芳しくない。ここ数年、原料の生産量が平成26年以外はいずれも目標値に届いていないことが原因だ。今シーズンはその傾向に拍車がかかるだろう」と総括している。

結果的に本モズク1キロ当たりの相場は「昨年135円」⇒「今年150円」と1年で10%以上もアップ。業界筋は「今回、追加した苗床の収穫も悪かった場合、さらに値段が上昇してしまう」と複雑な表情を浮かべている。

一方、本来は「本モズクの不足分をカバーする」役割を担う糸モズクについても「在庫不足により製造休止を余儀なくされる先も出てきそうな雲行きだ」と関係者は危機感を示している。先行きを見越して「主要な得意先に供給を集約すべく、既に他の販売先への納入を絞り始めているメーカー」も少なくないという。

【担当記者直通電話 03-3342-3871】